

スペイン カキの出荷が近づき出荷量と価格に良い見通し

[FreshPlaza 2025年9月16日](#)

産地での仕入れは厳格に、業務運営は効率的に

カキの出荷シーズンは例年とほぼ同じ9月20日に開始される予定であり、産地では他の年と比較して良好な出荷量と出荷価格が見込まれている。

エクスクイジットフルーツ社のダニエル・ヴィダルCEOは、「天候条件が良好で病害虫がうまく管理されているため、収量は平年並みで品質は良いものと見込んでいる。サイズは均一で、全体的に昨年よりやや小ぶりだが市場の評価は昨年と同様によいだろう」と言う。(以下「」は同CEOの話)

柑橘類、ザクロ、カキの出荷シーズンの開始に伴い、バレンシア州に拠点を置く同社にとっては年間で最も繁忙な時期となっている。カキは同社にとって出荷量及び認知度の両面で主力となる果実であり、販売量では業界第2位の規模を誇っている。

「8月20日には早生ザクロのスミス、アッコ、エメックの各品種の出荷を開始し、今月からはワンダフル品種がそれに続く。今週からはウンシュウ系マンダリンの販売も始まっており、柑橘類の出荷シーズンは10月中旬から一層活発になると予想している。ただし、最も需要の高まる時期にクレメヌールの供給が大幅に減少する見込みであることから、最盛期は年末までと見込んでいる。」

同社は、市場で最も広く栽培され、市場での需要の高いロホブリランテ品種を中心に取り扱っているが、シーズン初期にはマキシム及び富有といったニッチな品種も扱っている。「販売期間を若干延長するとともに、果実を徐々に市場に投入できるよう、9月の第2週には富有、第4週にはマキシムの出荷を開始した。」

今年は産地でのカキの買付けが早期に始まり、そのため昨年よりも高い価格水準となっている。「2年前は悪天候と病害虫の影響で果実が不足し、昨年は嵐と洪水により多くの果実が失われた。供給量が十分にあるかどうかへの不安から、特に大手グループによる買付けが前倒しで進められている。産地と市場で価格の乖離が生じかねず、時として市場で困難が生じる可能性もあるため、慎重に対応するよう注意喚起している。産地での仕入れは厳格に行い、業務は非常に効率的に進める必要がある。」

「価格は、流通に関わる全ての関係者にとって収益を確保できる水準になると考えている。数年前にはシーズンごとに価格が大きく変動したが、販売価格は安定してきている。一部の市場ではカキは大量販売商品となっており、買い手は常に妥当な価格を支払う意思がある。そのことが価格の均衡に寄与している。」

近年、病害虫管理の問題とそれに関連するコストの影響でカキの栽培面積は減少傾向にあったが、同氏によると、現在は実際の需要に見合った水準で安定している。

「カキの主要産地であるバレンシア州では小規模生産者が多く、管理の難しさから他作物への転換が進んでいる。このような状況下で、弊社は生産者との関係を強化し、収量の最適化を図ることで安定した出荷量を維持しつつ、顧客の需要に応じた事業の拡大を実現している。それにより、弊社は商業的に成長しており、これは大規模生産者の存在があってこそ可能なことである。」

同社は中・東欧市場において強い存在感を示している。「これらの地域に加え、中東及びアジアでも成長の余地がある。中国は現地品種のカキが多く消費されている巨大市場であるが、物流面の課題やアクセスに関する厳しい条件も存在する。中期的には協定によって安定した取引が可能になり、興味深い市場になるかも知れないが、それも視野に入れつつ、現時点では近隣市場での地位確立を優先している。」

同社は、9月30日から10月2日までマドリッドで開催されるフルーツアトラクション見本市に出展予定である。(出展の詳細省略)

執筆者: ホエル・ピタルク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)